

13年6月「プラット」オープン

名豊ビル周辺を一体開発 変わる街並み駅南まちづくり

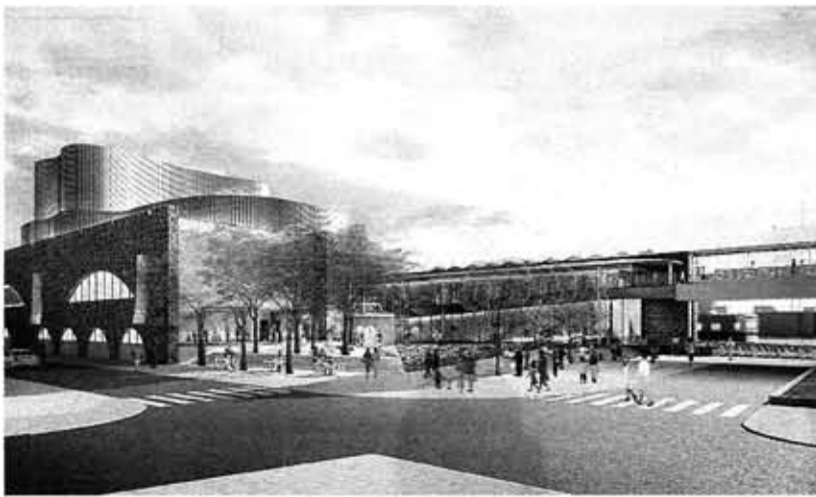
豊橋

豊橋駅東口、渥美線が走る脇で、13年5月のオープンを目指す工事が進む同市芸術文化交流施設(芸文ホール)。愛称は「プラット」に決まった。「さまざまな芸術が生まれるプラットホーム」「気軽に立ち寄れる場所」との意味が込められた。舞台芸術のメッカとしてだけでなく、中心市街地にぎわいを呼び戻す期待も背負っている。プラットが建設される豊橋駅前大通南地区(駅南地区)は近年、再開発ビルがオープンし、今後も大型案件が検討されている。プラットの完成を機に、街並みが変貌していく予感がする街だ。

【再開発】08年コリ感のあった道路コラフロントが、09年は、視界が広がり明るくなった。豊橋駅ユウが再開発。こうした再開発にからプラットまで続く道路はすでに拡幅され、歩道を整備、電線も地中化された。かつて暗い裏道は、市街地空洞化

で活気を失いつつあった同地区の人々に、地元を見直す機会をもたらした。商店経営者や住民が主体となり、08年に発足した「豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議」は昨年、市の補助を受け「まちづくりビジョン」を作成した。第1ステップでは、同地区中央に位置し、名豊ビルや開発ビルなどがある狭間児童広場周辺を一体的に再開発。交流の拠点とするプランだ。10年、中部ガス不動産や総合開発機構など、地権者らが立ち上げた勉強会は昨年3月、「豊橋駅前大通2丁目地区再開発準備組合」に発展した。

プラットの完成イメージ



行政もこころした地元の動きを後押し、同市初の市街地再開

発事業を目指して、「駅前大通2丁目地区基本計画」の策定を進めている。事業は、高い公共性が求められる採算性の確保も難しいが、補助金や税制の面で有利だ。

【水上ビル】一方、同地区を東西に貫く通称「水上ビル」。建築から45年以上が経ち、建物の寿命はあと10、20年と言われる。現行法下では、現状のような水上上の建て替えは困難だ。

ビジョンでは、10数年後に寿命の尽きた同ビルを「建物」が「新川」が復活する

水に長生き 保存願う声



建設から45年が経つ「水上ビル」



一体的再開発が検討される開発ビル⑤、名豊ビル⑥と狭間児童広場

存続しなくなった後も、水上ビルの機能がが地区内で継続しているよう方策を探る」とし、再開発ビルへの移転や、地区内の空き店舗や空き家を活用する案を上げる。水上ビルが移転した後の半品用水には、「水を生かした憩いの空間を創出」する。かつて清流として親しまれた「新川」が復活する

あけまして おめでとう ございます

2012年

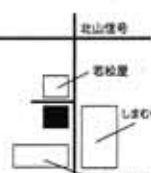


空間づくりの
ベストパートナーでありたい



建築設計・施工・リフォーム・不動産

株式会社 プラス 設計室



建築・不動産コンサルティング 代表取締役 荒木 光男
〒441-8105 豊橋市北山町字西の原40番地78
TEL.0532-21-5255(代) FAX.0532-21-5256